

Title	Gallia 56号 あとがき/奥付
Author(s)	
Citation	Gallia. 2017, 56, p. 135-135
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/69842">https://hdl.handle.net/11094/69842</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## あ と が き

金崎春幸先生と春木仁孝先生は、お二人とも、大阪大学言語文化研究科（2005年に言語文化部を再編拡充）にて、三十数年間にわたって教育と研究に尽力されました。金崎先生には数年に一度、春木先生には毎年、文学部にもご出講いただきました。金崎先生はフローベールを中心に講義され、春木先生はフランス中世文学の読解を通じて古フランス語をご教授くださいました。お二人の厳しくも温かい薫陶を受けてフランス文学・語学の研究者を志した人も多数に上ります。とりわけ春木先生の授業についていくには格別の準備が必要だったようで、学生たちは毎週定期的に予習の会を開いたりしていました。

私が両先生のご交誼を賜るようになったのは、朝日出版社刊『新・フランス語文法』（いわゆる阪大文法）の改訂作業がきっかけでした。2010年の春ごろから約一年間、豊中キャンパス所属の日本人フランス語教員全員が数か月に一度集まり、そのたびに朝から晩まで議論を重ねました。みなで例文のひとつひとつを検証するのですが、文法的に正しくても古い言い回しや日常あまり使わないような文は、容赦なく「あかん」と切り捨てられました。その非情な宣告を下すのはたいてい春木先生でしたが、つねに理知的な説明つきだったし、その場はいつも笑いの絶えない和気藹々とした雰囲気でした。私が用意してきた練習問題のすべてがボツということもありましたが、それも含めて、楽しく有意義な経験でした。昨年には、同様の作業を経て、再度の大幅な改訂が行われました。春木先生と金崎先生がこの三訂版を教室で使われることがないのは残念です。

退職されるとはいえ、お二人ともこれからますますお元気に研究に取り組まれ、本会を通じて後輩を指導し、励ましてくださることでしょう。金崎先生、春木先生、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

ところで、昨年4月に、本会会員の伊地智均先生が逝去されました。大阪大学、東北大学、関西大学にて教鞭を執られました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

本号執筆者のみなさま、論文査読に当たられた編集委員各位、本号の編集作業と本会運営の実務を担当してくれた学生委員諸君に感謝申し上げます。末筆となりましたが、会員のみなさまのご健勝を祈念いたします。

(山上 浩嗣)

## GALLIA LVI

2017年3月1日印刷・3月4日発行

編集発行者 大阪大学フランス語フランス文学会

代表者 和田 章 男

〒560-8532 豊中市待兼山町1番5号

大阪大学文学研究科・文学部フランス文学研究室内

tel. & fax : 06-6850-5117

e-mail : 1953gallia@gmail.com

URL : <http://www.gallia.jp/>